JAIST Repository
https://dspace.jaist.ac.jp/

Title	学術書のオープンアクセスについて考える
Author(s)	原田, 隆; 白川, 展之; 高橋, 愛典; 設楽, 成実; 天野, 絵里子; 鈴木, 晃志郎
Citation	年次学術大会講演要旨集, 40: 1-2
Issue Date	2025-11-08
Type	Conference Paper
Text version	publisher
URL	https://hdl.handle.net/10119/20272
Rights	本著作物は研究・イノベーション学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Research Policy and Innovation Management.
Description	一般講演要旨

JAIST
JAPAN
ADVANCED INSTITUTE OF
SCIENCE AND TECHNOLOGY

Japan Advanced Institute of Science and Technology

ＳＯ１

学術書のオープンアクセスについて考える

○原田隆（東京科学大学），白川展之（新潟大学），高橋愛典（近畿大学）
設楽成実（京都大学），天野絵里子（京都大学），鈴木晃志郎（富山大学）

1. 要旨

近年、学術書籍のオープンアクセス（OA）化が国際的に加速している。欧米を中心に、政策的支援や多様なビジネスモデル[表1]の導入が進み、研究成果の自由な流通とアクセスの拡大が図られている一方で、日本では学術論文に比べて書籍の OA 化は依然として課題が多く、特に人文学・社会科学分野においては、出版コストや著作権処理、流通インフラの整備など、複雑な要因が立ちはだかっている。本セッションでは、欧米の OA 政策の最新動向を紹介するとともに、日本における学術書籍の OA 化の現状と課題を整理する。さらに、研究者・出版社・図書館など、関係者がどのように連携し、持続可能な OA モデルを構築できるかについて議論を深める。

企画者は、学術書の OA 化はわが国の、特に日本語による優れた研究成果を世界に届ける重要な活動であると考えている。本セッションが、今後の学術出版のあり方を再考する契機となることを期待する。

2. 司会および登壇者

司会

（1） 原田 隆
東京科学大学 情報理工学院 リサーチ・アドミニストレーター（主任 URA）

登壇者

（1）天野 絵里子
京都大学総合研究推進本部 リサーチ・アドミニストレーター（上席）／紀要編集者ネットワーク

（2）標葉 隆馬
慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科 准教授

（3）飯澤 正登実
合同会社 Liberality やまなみ書房

（4）髙橋 愛典
近畿大学経営学部 教授／研究・イノベーション学会 大学経営研究懇談会

3. 謝辞

本セッションは、次の JSPS 科研費 基盤研究(C)の助成を受けた研究の成果である。
JP25K15810「日本の<図書館出版>の現状・課題・可能性：ダイヤモンド OA 振興に向けた基礎調査」
JP23K02501「大学評価への計量書誌指標の導入のもたらす人文社会科学研究への逆機能性に関する研究」

4. 主催・共催

主催：研究・イノベーション学会 大学経営研究懇談会
共催：紀要編集者ネットワーク

表 1「OA 出版のビジネスモデル」[1]

モデル	説明	事例
BPC/OA 料金	著者が、研究助成機関や所属機関の助成を受け、出版社に BPC(Book Processing Charge) や OA 料金を支払う。	Boomsbury, Brill, Elsevier, University of California Press（Luminos）, MDPI, Manchester University Press, InTechOpen , T&F(incl.Routledge), Springer Nature (Incl.Palgrave Macmillan)
エンバーゴ ／遅延 BPC	OA でないタイトルとして販売された書籍について、後で出版社に料金を支払う。料金は最初の販売期間によって相殺された分、通常の BPC より低い金額となる。	Bloomsbury, Brill, T&F/Routledge, Manchester University Press
フリーミアム	他のフォーマットの電子版や印刷版の販売、図書館からの会費等の収入源によって補助され、著者の費用負担なく OA 化。	OECD, Open BookPublishers, OpenEdition ,
エンバーゴ /遅延フリーミアム	書籍は最初に OA でないタイトルとして販売され、その後、特定の条件が満たされた場合（例えば、販売目標の達成、指摘されたエンバーゴ期間の経過）に著作の費用負担なく OA 化。	Cambridge University Press, JSTOR/Path to Open
機関助成/New University Presses(NUP)	研究機関がその機関に関連する OA 出版局での出版を助成。料金は請求しないか、割引され、その機関に所属する研究者はさらに割引や料金免除を受ける。	Lever Press, Scottish Universities Press, UCL Press, Rose University Press Universitätsverlag Göttingen, University of Huddersfield Press, University of London Press, University of Westminster Press, White
図書館メンバーシップ制	図書館やその他の機関が出版社に年会費を支払うことで、書籍の OA 化にかかる費用の一部を負担。機関や著者は、BPC の割引などの追加特典を受ける。	Open Book Collective, Open Book Publishers, Punctum Books, University of California Press (Luminos)
図書館コンソーシアム（機関クラウドファンディング）	OA ではない書籍のコレクションに対し、図書館が OA 化のために参加費を支払うことを約束、十分な数の図書館が参加し、目標金額が達成された場合、そのコレクションが OA 化。	e Gruyter, Knowledge Unlatched, Transcript, KOALA, Jisc's Open Access Community Framework, Investment Program LYRASIS' Open Access Community
Subscribe to Open	図書館がクローズドアクセスの特定の電子書籍コレクションを購読または購入、その購読料が新しく出版される書籍の OA に充てられる。	Bloomsbury, Central European University Press, Liverpool University Press, MIT Press, Taylor & Francis, University of Michigan Press
クラウドファンディング	個人が費用を拠出し，十分な数の個人の参加が確認 され，目標金額が達成されるとその書籍は OA となる。	Unglue.it (typically in collaboration with publishers, e.g., CUP, OBP), self-published authors

[1]次を改 変。OAPEN. “Business models for OA bookpublishing”. OA Books Toolkit. https://oabooks-toolkit.org/business-models-and-funding/business-models/article/10432084-business-models-for-open-access-book-publishing, (参照 2025-03-31).